

呂4
1761



江戸砂子温故名跡誌卷之四

泊涼纂綱

豊嶋郡岐田領

小日向

閑口

雜司谷

大久保

土

牛込

高田

市谷

大木戸

中野

高井土

同

内藤宿

鮫橋

稱櫓谷

多磨郡

同郡

三

四谷

音山

涉谷

荏原郡

世豐谷

同郡麻布領

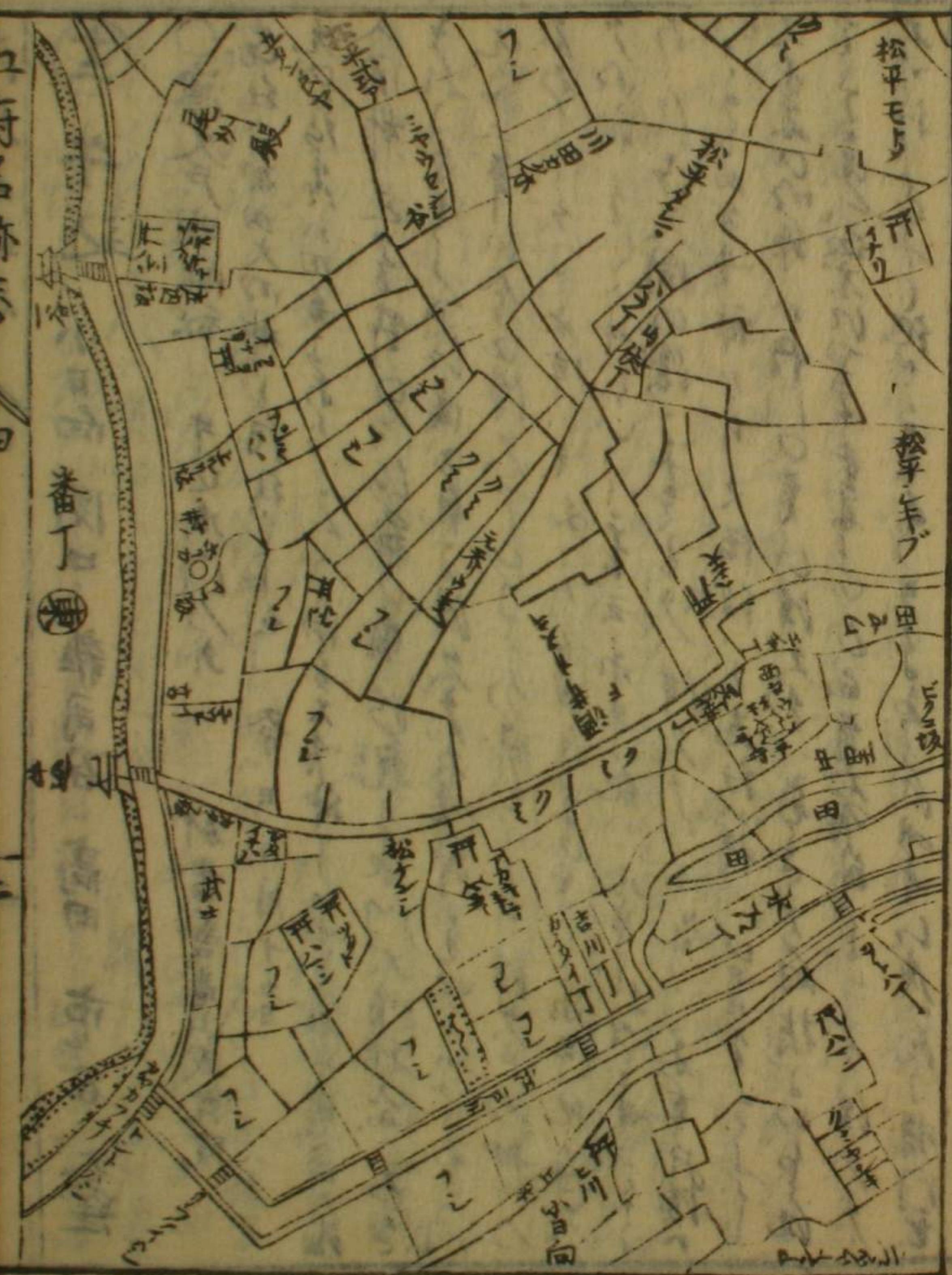
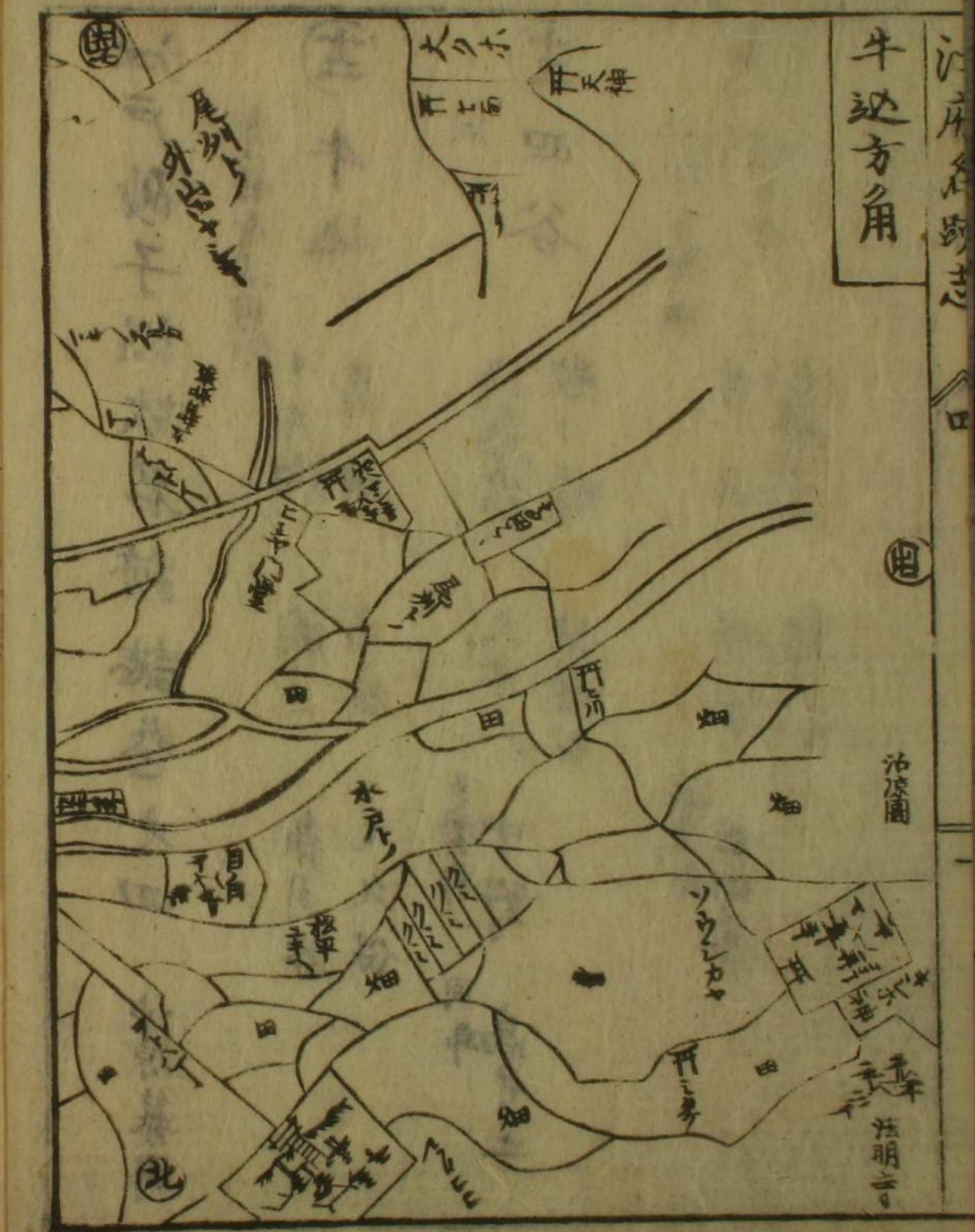
長者ノ丸

鶴谷

沿岸圖

西

牛込方角



○牛込 小日向 国口 雜司谷 高田 市ヶ谷 大窪

○津久戸明神社 牛込御門以外

列當善龍山成就院

当社の神の大御神と同様にて

祭日九月十五日

元の社名は田舎山より、田舎大明神といひて、永吉室太田人達入圍神。ニ生野の山に於の城の城門大門神を守る所と云ふ。されど今入圍の城門は鐵の丸の津久戸大門神を守る所と云ふ。元和二年れ今津久戸の山の上に、津久戸の神と名あつた。水亭へも和ら高井の事の事、水亭也津久戸の神を守る所といひて善云。水亭記に水亭代持と有る。あいだ入圍の邊に立てる。津久戸の山の事も水亭代持といひても可。水亭の神守り又伝統云高社ハ將門の首を守る。又水亭の以外ハ將門の首ハ津久戸、高社主守る府相手も水亭する。ゆえ血本にて守る所と有り。ひ血首大明神として津久戸守持。水亭代持も守る。水亭の肩守る將門を

あつて牛込五家一室とへね門延列をあつて自國に威をふるひ鬼神のやうに人民がぞれ一々貞應寺御行を以て守る。延列ノ下ノ小延列ハ將門の牙將れ出湯にて表御骨千疋と合致。一あが里風とある。將門の下ノ將門の首多都のゆゑに刀を引いてあるとある。いふかどもかくしのを以て。けよしわざとある。大歴年をもす。これ唐鬼をもす。とす。とく將門の下を守りしてす。よ小社立廻りの灵とまく。おはほ社のお盆よす。いじーとく。將門居候の址ハ下総国鷺郡守谷。三五丈有。を九二十九ノ大沼。江戸人ハ八幡えを守護土神。とて里諱。日び。ひすするもの。

○六幡宮

門折

列當善龍山成就院

善山の御神と善山の神と云ふ。とろく御山傳言。ハシムとの地主しの御山傳言。とおのゆゑと田舎にいきとれる人の神を守護土神。とて善山。とて善山。人ハ八幡えを守護土神。とて里諱。日び。ひすするもの。

ねあうづくらめゆくの櫻一木とそのれよひすて浦瀬を
まくは幡太神みどりの神をもれんしきよろく十ろ
連三すとし夕一きむくいは代不詳

○神樂坂

牛込門のじよの坂

市谷八幡の金あれ神輿車の門の櫻の木よそく
とぬらびと奏もんのものあらえと高木大曾根番
ぐらき月十足たるす神酒市あらう又近不五木や
八幡のゆうじ坂まことのあらえとさかとくわらう

○通坂

山手の坂のあ ○夷男坂 生田の坂

古き物語よみじーまたの仰門の門下小所美作をと云人
女義ちよの坂ーとあ園にいる坂すとがめとくる東女
あら夫れ吉かとからむとくらじくそりの月行くと
ちりあ鄰にとるのまふの隣事よほじとめのまふ
をふとたどる坂すとお城ふとねたに櫻をひと

木の木よかくら木の木の木の木の木の木の木の木の木
あられとをよなまととよのりゆくよなまの木の木の木
ゆりうよの木をじきー坐と名付る。としまの木の木
もも木をきとひあをとすと神すへせりーとすと
木の木をあらくひ坂すとくらて玉作をとすと
あらくひ坂すとくらて玉作をとすとくらて玉作をとすと
うとおとひとくらて玉作をとすとくらて玉作をとすと
かの木を坂すとくらて玉作をとすとくらて玉作をとすと
かの木を坂すとくらて玉作をとすとくらて玉作をとすと

○船河原

ひー大川の川あとをもとつるーと

市谷よだれあらよとよの木とよとよとよとよとよとよ

里新日生の流すくよの木よに井をくわくわくわく

千載集じよよハ第じよの井もよものとよとよとよとよとよとよ

枕草子

井ノ内アリの御武藏ノト有又多摩郡中雪アス。

ある事アリモトテ此を知ル行ム久シ 北村東巴

○伝臺橋

傳源道主格 河門の底口也

○立慶橋

立慶橋主源川ノ上大橋主源文立慶居伊リ木
桺の下モ水せんの捨ムアリテシテ此處モ多良
木ノトモ

○鷹巣廻

鷹巣廻ノトモ

○立慶橋

立慶橋主源川ノ上大橋主源文立慶居伊リ木
桺の下モ水せんの捨ムアリテシテ此處モ多良
木ノトモ

○御扇

御扇主源文立慶居伊リ木

うする所ハ御日のうち時もて體外の人凡てすと
そ後は紀傳者もに修きの方法へなまくしを而
がときこ清ら後のがたもあもよこさむれやう
はく役勢をあうとし

○竹人也 俗ニ山車と云

○高天原場 りの車のひー鳥拂あそべ今とまつて

○若宮八幡宮

小坂の久人 列祖光祖山門院

山列里ひしが御 又に極天皇を奉りて和漢三才圖會文治八年の秋源那那奥列泰御近御の時天御在ありて
後達之あうとと高社ハ之有のすまくい大社よりて張
テシテ之を奉る事無なり

○市去湯河原 千曲川の下く黑麻本善寺

ありかくよしよと 叫びて吸 以て吸とえと能のち

○大友の松牛山天祚寺 民衆のいとく人友を省御松までの地

○草薙薬師 天台

薬龍山米菴寺正教院

上野本

洞山寺觀音律師

太田佐瀬建主

次住雄枝法師

牛山

山中ハ平河樹林也すありて後因名え和の源今のせすと
高亨なるはそのと樹林にあら こちる事多き多き數
一佛生あらずと云ふは是台祖始教大師一刀之れの末流佛
沙門也と云ひてキリカシが歎美殊事中には一ヶを道良
士は太田方羅上校期無事とぞあらまく千王乃室印と宝
殿すめめ外一ひくわざく牛王八精あらまあり

○赤城明神社

牛

上野本

利齒赤堀山等貴寺

上野国赤城山夜澤神を勧化とありし上野の山に
大胡常陸と云ふも赤城をかく信人胡(勧化)牛山
通す御神として今れありあ社ハ之の名胡常陸ハ吉作
牛山大胡と云ふ人又組の信仰あり御社ノと上野の
牛山大胡と云ふ牛山の社すと云ふ又御社をぬ御満滿し
トシテハ日光山記より下野國二荒山今是書上野國赤城山

神社と申の御中辟きをあらそひ二重の神へ蛇蟠と敵赤城の
神へ蛇蟠と見をあらへおたうへあり蛇蟠の神はケテ不
能神よりあれ 奈れ九月十九日陽年し 當社四邊ハ
牛込門内本食事の牛とみ不今寺の方す日本之極なり高
神本と云あ社牛の行え事の精守と行え事じの松山室

○牛込氏の墓

宗泰寺にあり

其墓碣は大胡太郎室俊の高主馬少輔室行玄列牛込
ノ縣より一其後勝行の代より東氏康し属すと云
名をふ氏とん今即幕下牛込の父祖と云

○水川社

まあもる ○委崎

金剛寺坂 金剛寺と云はれまつまき 松町牛込の坂

○服部坂

新娘のとくに惠中和尚旧於西禅菴と云

○江戸川

赤の吹えし圓の大波堰ひくつとむがる

○江戸川

赤の吹えし圓の大波堰ひくつとむがる

○自白不動堂

東豊山新長谷寺

毫

圓口

草木の生れ不動堂大門前 溝をひき石を大師脚刻
二龜の像一龜は左の流す右の流す一龜は右の流す
中興開基長谷妙善院小波源友善修正

元和四年正月興し

○袈裟掛の橋

本堂の前もあり

縁記曰 あるて野別足利何東の家ありて本堂を有り
武列之為都 国口よりする國口の住人村氏の主君のより
さうする所を出でて時五十九年春日山の御子を出で
にこもうぬりぬりとおどりのまことに主役外を守る
お宿一いせをあ附して居候を起す
室東の源御重持の時奉ると拂ましら故南の日馬と對
○不動坂

本堂の前より

鈎金丸あり

○梯部橋

本堂の前より

千葉の千月と水に通る

○八幡宮

竜象山洞雲寺 拝 芙蕖流 四

○椿山八幡宮

右門寺 拝 竜隱庵 有

○水神社

下宮（水祭） 上、下開年（祭） 有祭 桂樹の名而しむ者

○胸突坂

桜の道

○崩坂 高祖明七十ノ年

○大渡瀧

面白の水と赤の大瀧

○上水

木原（松） 樹改治（松） 又至く清雲（松） 早雲（松） 涅槃

船橋（船） 玉川（河） 鮎（鮎） 有之多也

○日車六玉川

角（川） 有之多也 玉川（河） 鮎（鮎） 有之多也

○禪宗佛閣

千廻 小日向

○蒼龍山松源寺

妙心寺末 江戸山ヶ寺前 一代紫衣

○岡山靈鑑寺照輝院

名号五字蓬山居長刀道人（刀道人） 墓主七世名惟庸高

○蔭涼山漸松寺

日未 ま傾言 千石

○靈龜泉

源氏（水） 有之多也

○龍峰山保善寺

甲州 東林院末 異名○鷲寺山南昌寺

○龍峰山宗経寺

家祥寺末 广

○龍峰山宗経寺

家祥寺末 中里

○龍峰山宗経寺

家祥寺末 中里

○龍谷山中寺

天祐寺末

通寺間

室人水の源内齋の附坐庵に所在つる。傳より一作茶と
う。あくしと寺号をひそむ。是とする所も多大
い。とよす正方を仰賜あたま。一因の寺。う。正
寺かられし因ゆ。因寺。上卷にあり。上卷にあり。

紫本見

○安國山慈寧寺

因東曹日洞宗僧鑑云寺名

小口向上承陽

因山通幻和尚

寺領百十石五斗余

佐野國慶臺庵寺

元に列すあり。正觀開院仰て天正三年しま相列。小山原北条氏政の
寺ト總開園石いづく。小山は小金の事。蓋いづく。寺社分限記見

○雲居山宗泰寺

寺領十五石

吉祥寺末

平天門

○變山寺

吉昌寺末

名

○隱洋山鳳林寺

日木

牛山

○正覺山寶泉寺

日木

名

○高田山一山法院

經空寺

崇禪

○桃嶺山巖寺

日木

日

○安寧山清久寺

日木

日平

○久室山万昌院

日木

名

○惟玉山長原寺

濟萬果

牛山

○紀雲山大龜寺

日興果

名

○毒樹山松尾寺

吉昌寺

川田果

○南谷山淨慈寺

日木

名

○泰國山長昌寺

吉昌果

山田明

牛石津急急寺

日木

名

○ね夏山永勝寺

日昌果

寺中 南昌寺

○青龍山林泉寺

日木

名

○日輪寺

吉昌果

日平

○花溪山通惠寺

日木

名

○南菴山法華院

吉昌果

日平

○月汎山法身寺

日木

名

○圓口山永昌寺

吉昌果

日平

○曉翁山悟性寺

日木

名

○惠日山金剛寺

吉祥寺末

日四

○開山用山和尚

太田道灌文忠平年中

以建之

道灌の本傳あり。又乃羅善枕物。以爲劍の常勝ぢりとも
考する。其の板を今剣ちぢりとも

○正覺山月桂寺 積金園是吉未 善傾白石 川田之庄

高寺ハ元一ヶ谷にありて平野寺と云へば其連山の間より而し
峭壁に木喜達川源端す月桂院碑尼八十八塚ノ次にて立て
有寺に葬る。されど月桂寺と云う。謹改。松竹菴。臥童菴。

○天台宗 佛閣

○觀音堂 俗襟此觀音堂牛頭山牛流行元寺 上野未 李傾白石 香町

圓山慈光大師 本尊多宝佛。惠心作淨瓶。持佛。此
濟古。大寺也。然門外西門内門也。般八年門の西也。左は南天
並木也。俗よ南天也。もと云い。有佛有神ハ高寺の通称なり
之の源を細の大殿も今にして。これも行幸の宿也。一わくもと
大水の三札。寺堂甚ひ懶。一わくもと

○圓勝院堂 高基之難善院平川寺 上野未

○高雄山二老院 上野未 さす。○宝相山象鼻院 上野未 さす

○雲光寺 安樂寺 旧未 旧

○佛樂山寶慈院 上野未 降丁。○東光山泉慈寺 上野未 興丁
○東照山寶龍院 旧未 さす。○松雲山靈華寺 旧未 10
○善慈院威妙院 旧未 五季。○瑞荷山慈惠院 行昌未 先代同
○宝光院正智院 旧未 小日向

○淨土宗佛閣

○樹王山光嚴寺 増末 3年 ○光明山大覺寺 知恩未 3年
○不退山正定院 旧未 3年 ○一心山專金寺 仙道未 3年
○金剛山大信寺 旧未 10未 ○護念山宗義寺 安樂未 新田
○采ね山法正寺 旧未 10未 ○光明山大覺寺 知恩未 3年
○中臺山光嚴寺 旧未 小日向 ○安樂山還國寺 旧未 大丸
○宝國山大乘寺 旧未 圓口 ○法樹無難寺 3年

○玉樹山良金寺 少林未 小日向 ○

○法華宗佛閣

- かくえの清淨寺 中宗 東院 ○長久山妙泉寺 萬葉
○松栄院大法寺 小澤 ト南 ○長久山崇光寺 平葉
○常泉寺 10未 原町 ○正善院佛悅寺 中宗
○一指山宗極寺 10未 10未 ○妙法山香福寺 10未
○正定山幸圓寺 小澤未 10未 ○常樂山淨輪寺 10未
○日藏山長榮寺 10未 小澤 ○知多山亮應寺 延永
○万年山淨輪寺 美澤 10未 ○長久山青松寺 三澤
○吉妙山國通寺 小澤 10未 ○正東山妙顯寺 10未
○福應山蓮光寺 10未 10未 ○長地山正法寺 10未
○妙法山蓮光寺 10未 10未 ○上齊山久應寺 10未
○象教山蓮花寺 10未 小澤 10未 ○青峰三光院 圓口

○直言宗

- 神教山護國寺 ま傾玉西云
かくえ馬脇石如惠輪觀音磨併 元和年中か堂は建てて木
の下堂は兼基の子と號して今かあり此後「新葉堂」と呼達三門を今へ
行ひてとハハリシ
○筑波山後持院 ま聲玉西云 根元は筑波の舟入院の寫寺
如ハ知是院と云岩井町にいと久縁年中乃建てて、神田篤の
外へしきる字は保のばくの回蘇院也あ不傳く當ちふじる
○奥令山香波寺 10未 10未 ○白王山西照院 宝松果 牛込
○瑞翁山崇玉院 10未 10未 ○法水山香放寺 10未 10未
○三門山千手院 菩提寺 10未 ○蓬花山金華院 10未 10未
○一向宗 10未
○佑久寺 東 草 ○太子山童喜寺 東 10未
○分塵山崇教寺 10 山伏丁 ○高源山香波寺 10 小畠高
○承名寺 西 上泰方

○ 雜司谷

○ 戒光寺 法明寺 法花宗

ま徳十石

日添主人用基
とく日添主人強列
トタリシテ日添主人
へ日蓮主人の沙影

法明寺 法花宗
ま徳十石

○ 犬子母神

法明寺 東佛場のね

天正六年日照場とく日増の相ありしきあをばり

○ 六老僧の寺

東陽場

法明寺世平

六老僧の沙影

各日蓮主人の沙影なり

辨 阿闍梨

月智

自蓮阿闍梨

日興

大國阿闍梨

池上 日朗

伊豫阿闍梨

真向 日原

民部阿闍梨

茂永 日向

蓮華阿闍梨

良峰 日付

日源

日家

日傳

日法

大目

日位

日常

日保

日秀

日祐

日得

日弁

日合

日礼

日賢

日忍

日門

日高

○ 九老僧寺

日新 本能寺

日朗丈人の弟子し

日印

日輪

日善

日傳

日範

日證

○ 疾麻

高王拉

法有寺均

日範

○ 経巻門

法明寺前の細らしをも

○ 星宿湯水 修法寺と報恩寺の四の中一處のねす
星宿自界の毎次のすり 修法寺の湯のすり

あまくよげすよ里をもどりとし里人あすみのすき
ひつじふて毎晩の傍ありとし後日晴乃りてへんこま
○鬼て毎晩の事 菖蒲節ありとま切の名物し

雜同谷

八境

星跡清水

御嶽夜雪

安見橋鷺

紅春川螢

巖山

油ヶ谷

ととよ長條

眉山水玉

池園谷月

○三傳神木

三傳の方水川の邊に大樹に注連アケテ有り

○高田

○戸塚 高田の辛し古廢子ニ云昆比良の名者は今を本の齊
も不を知るちきゆめ白瓶をじるノクトノムニ戸塚ト
トありとむとせぬ近くに施場ノミタリ其のえ宝泉寺の場の事
○婆兒、楊 又推掛楊トモタ 高田水川する 千三百尺
○高田馬場 塵芥度一丈二尺
○比丘尼坂 十里八面の事

○落合 ち苗内
三昧あり

○穴八幡社

高田戸塚村 列當夫松山放生寺

びりハ御ともゆかうりの里人仰づくニリ申み松の事
の事より寛永十二年にわづく沙良大將松平利文爲之空次乃
まかのり少すとちの御名をあり う天の神を八幡を奉
勧請してと作手を以て ふ施之前日ありて手のね
とあらへ是ハ幡文納矣す 仰 神の御事を御多きこと
とあるひ沙良の私を沙井とあらむ井をさうるを後寛永
十八年己酉清岡山口八幡氏人良昌信都ハ毛利家より
て権守の何事より直軍一姓を行脚ひ坐處に事な御名各
所革閣の主にやうとも渡牛野室等すと今は印美雄の
令下にあへ一をすみ給くと社傍よりとおれ林當時もと
じよそんと世をなぐる者をもと給くとものかにしこれ
穴あら口せすく真かくとおれもあらむりの中れ跡
すすむの併様ふとよだへり良昌しれをもつま

あくびを定へ情のまゝの堂にはありあひの時すまに
すくまつてゐるもふ清水のふとむすゞりうそうかう
神えふ神　人ねくきもく
汝ちあらをひは堂ひひひてひかの、まくまく
今れあらうとひは汝へハ情のむせなまこと多めん
えりえ　うつうつ
夫りね　神様のあらぐ一ニとゆのたなり

△放生池　八情のまゝの池をも

○昆沙門堂　高田　^{大吉}禪叟　宝象寺　毒虫

本モハ真言大師の山田原多所の寺傳にて

△高田禪翁江

せんじょう

文龜元年と放生池の源友良又と云ふと云ふ
え縁十一年の宵を想ひ松の樹下水附井と云ふと
やしのあらうと、さよの聲ある今一けどう

△千歳の松　祐あし　昌門妻のまゝあり

△新鶴の池

せいかくのう

寛永のまゝの而池の名を尋ねてアトテモケタ
トアモリトハ木の下の池也トトトトトトトトト

△高　正五九月廿一日　今一き當の源りし

△萬葉泉の名

祐あしたとぞひして

○二圓侍本觀音　淨土　雨室山西方寺　増上末

高田

岡山亨菴貞義和尚

次住九世相譽上人

南朝の年號もハ弘法大师人唐の寺唐音竜寺惠果和尚弔天空
乃見縁してトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトト
高野の樹原に清水を真言坂門あり大师亦宿すま。次第を
あらはす。清水の門四つの源氣列淺草のものとす。一ノ門く
二ノ門く三ノ門く四ノ門く五ノ門く六ノ門く七ノ門く八ノ門く

○立智迦來 淨土 亀鵠山誓願寺

天岸末

高田

同山木食を參上人 花園和尚

次任五世玄光和尚

本念誓願自心 大智の大佛なり
△立智迦來 かの堂のあはま大本寺に極わり思惟證修以爲
ハあさの證誠し左半の頃さうと一そく検索するとゆりと
かきひそく偏集の頃あさすうてゆきのゆきゆきのゆき
くらぐくおのこうけ様の名をアホルナリと云ふ門との形子ふ
のめきうロガーグ又是僧よらうきよらうきよらうきよらうき
えくともとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそとそと
そとあるものをと

かみくわさくよもんれあへたり 雀下巻沾涼
かみくわすくをなる人

今ハムをうそとまくしたのを 筏井魚路

俗のがくへ佛のがくへをと
小ハトクノ血ハ伊乃名骨教 栗本雪朝

○高田天神宮 別當真言 天童山真定院

中野 宝掌末

富

小野日社牛の天神 川内社の四役なり

○落馬地藏

不仏く 墓主

光明山大願寺

智覺

三毛

○紫雲山来迎寺

立教東畠

○永劫山建勝寺

日末 日

○淨國山清源寺

日

○十劫山宗源寺

日末 日

○市谷 大窪

○八幡宮 別當稻嶺山東園寺 真言 三野末 田町上

神絆ハ馬上甲冑の三の秋 神功皇后比咩神相殿ケリ
文昭年中太田石灌お資江城北乾ノ相列鷲岡八幡
を勅造ニ其城下邊の基ノテ東方寺達ニ神嘗別
當トヒキを瑞成トモトハ瑞成大明神後古より福充
ありし大永年中の多乱ノ破壊及後慶安の小方角
流城内空兵の時別當室源昌運ちしをもと一通

延喜

○茶木稻荷社 塔内鳥井の事より 岩山の地主し
佐佐日あさひ而猶ありあすく茶の木と因るる所
で茶をいひて此神の氏子正月二日之内ふ茶をのまれ
又月をそぞくのもの一七日二七日茶をいりて御があるもす
すす御やうじふ舊俗今よりの事より

○毛敬輪荷社 別當清雲山無本寺教藏院直言 田町上
元市谷八幡社あるの爲しよく茶木稻荷をすまつて云
八幡社あるの爲しよく茶木稻荷をすまつて云
瀬川をもとお義いむと義いし 當社をもとらん有りて云
慶長年中近に雇助をもとゑの娘三年三歳にて嫁を
せし深く折誓ひをしてか四民へ嫁へ今女嫁へ去
○左門坂 一谷市門ノ門の坂を云
あ木の木の山の爲田内門とりよしてその山と云
○甲良摩峯 左門坂の山下○飯治坂 まねきを奈良唯名
大木の山の爲田内門とりよしてその山と云

○津泉寺谷 左内坂をうて又下り谷て津泉もと云ぢ
ひ石ひ一木立るにみてその峰も水の泉へ爲るもと云
あ木の木の山の爲田内門とりよしてその山と云
尾湯牛まゆりてありえりうすいともゆりてあり
○小栗原 本村松平お津也々牛まゆりてあり
○合羽坂 日不ね草毛岸も々牛まゆりてあり
○会佛坂 日不ね草毛岸も々牛まゆりてあり
○すみぐら谷 同不口丁同
かねをちむすき崇 ○湯づる脚 同不口丁同
○くわ坂 ト一木の山伏門 高山をもと河某法印作
太神宮 ふ伏脚法並勧請の社し
○西根来 ○東根来 ほんの牛まゆり
○七面社 法花 春時山は善寺 世末 大木の
根肉の根身 あらのの木の根根身 い角の根東慶山
うこへ南社し

○大久保天滿宮 聖護院末 別當梅松寺等大聖院
北野口社し神御、東界の神御と云一名聖天神と奉田主
又西向天神と云是の社櫛面勿り少少の活潑な法度ハ人情ナキ哉
後北河帝安貞八年中哨惠上人神社の地し大傳於玄信中興
あれあ大久保ハ而復後拂之の如本も天名字を正本を送り
所ノシ江戸祭新し前列為い松緑山梅香院トシテ
大久保の社も祭紅九月廿日佛事 七面の社より祖を廟也
内塔門の子レシル生の頃過歎モリテ唐巖ヒテ

○大窪稻荷社

別當二專院

七面東町庵

井才天と相々

○諸宗佛國

市谷 大屋

市谷大屋町

○七宝山稟王寺 美樂木 まん百石
南寺ハ元真言宗し退耕ノニ多菴より一ヶえ御の廟美榮
流瀉雲和尚中興は山教ノニ成ニ十菴寺の通名寺と號ル
寺以御帳面にもあをと申むと申む後ナ今ハ寺の跡也アリ

○清光山林泉院家糧寺

第7 知恩寺

谷町支養寺

圓心蓮社御臺上貞云 天正二甲戌紀立 欽往天蓮社御臺上會おむ
舊而化ハ一杏樹寫土天飯し今尾列門羅の御の御し
沙高士天飯も了小き林のりもも出るはかうめううじ
小窓をあく深巻もいもももももももももももももも
渾巻の云渾巻もあをひの一聖社を造もされ可なんて而御がそ
宇入此姓鴻田氏へ地を乞ひて名寄直———道主職を
印入園公渡舟内沙巡行の事 御勝をももももも
昭和二丙申 尾列の御難と御てもの代ば———今の大直江川櫻
津津川の也———二世秀巻上人分掌の因し

△稻荷社

既にあり古寺の庭なり

万治元年一月あるの庭の老翁もあらわすそへ
端しやあしやあしやあしやあしやあしやあしやあしやあし
———白瓶と白瓶と白瓶と白瓶と白瓶と白瓶と白瓶と白瓶と

萬士天飯ももももももももももももももももももももももも

をかすらすこゝに達とまことのれを画不字と云ひ治せ之
あり。がくく経とくもみ岩ありて大穴をまくまくとそ

八幡も像

雲列の城主尼子修麻古經久松の舊

内に陽が地津の海危等外 走ねり 海舟等 駆命はあくと運上
を波門御船ト至多のとがくあり。ゆきりニ子姫スの名を八幡在
奉長佛とぞもて 八幡記本草源記 尼子氏系傳 あり又天子尼

海危等

意念を今す 事の心 本惠心堂の妙本と云ふ

天長年中 三度大師山列御乘寺有拂うり。主本を源次本也か
とひうりあり。寺割は源の日より拂御へつるの日一月を源次本也か
あり。是日吉念伴堂のをも。しゆう一所とも坐のわかるして。なん百丈余

年をもくあん修が奈良國をもひり。も依坐するが勝利あり

い接觸 まんの心

法收等淮法 修美院妙の事生

地高善魔

走切心 海陽壬生の日本に到

昇天木十章子

以次文作遷之。万なる仄を人連主

海照觀音

來こそ。海中二万の走玉。揚主に。是年中禮也。ハ高き河

口称山莊音寺

陞 西延東木 答 ○專金等 慶風末

大ノ木

蓮紹山惠光寺

法花宗 玉次未寺九 寺中 崇昌院 欽沒

一谷系脚

久榮蓮秀寺

玉次末

高

○蓮花山妙覺等

平賀末

高

○加院修行等

平賀末

高

大乘山經王寺

平賀末

高

○加院修行等

平賀末

高

自らの善見寺

西東大寺木

高

○浪法寺

西 東

高

長嚴寺

禪宗

日京

高

○尼羅山淨榮寺

日西

高

陽光山道林寺

妙心木

高

○方龜山東巖寺

膳無等木

高

万昌山長延寺

曹葉栗石丁

高

○永昌山宗泰寺

曹萬松栗

高

五聚山崇龍寺

日。れをなまく

高

○竜谷山圓光寺

日。室

高

鳳仙山長泰寺

日。大高東

高

○天長山永昌寺

日。器童昌等木

高

七星山宋法院

真言後室果

高

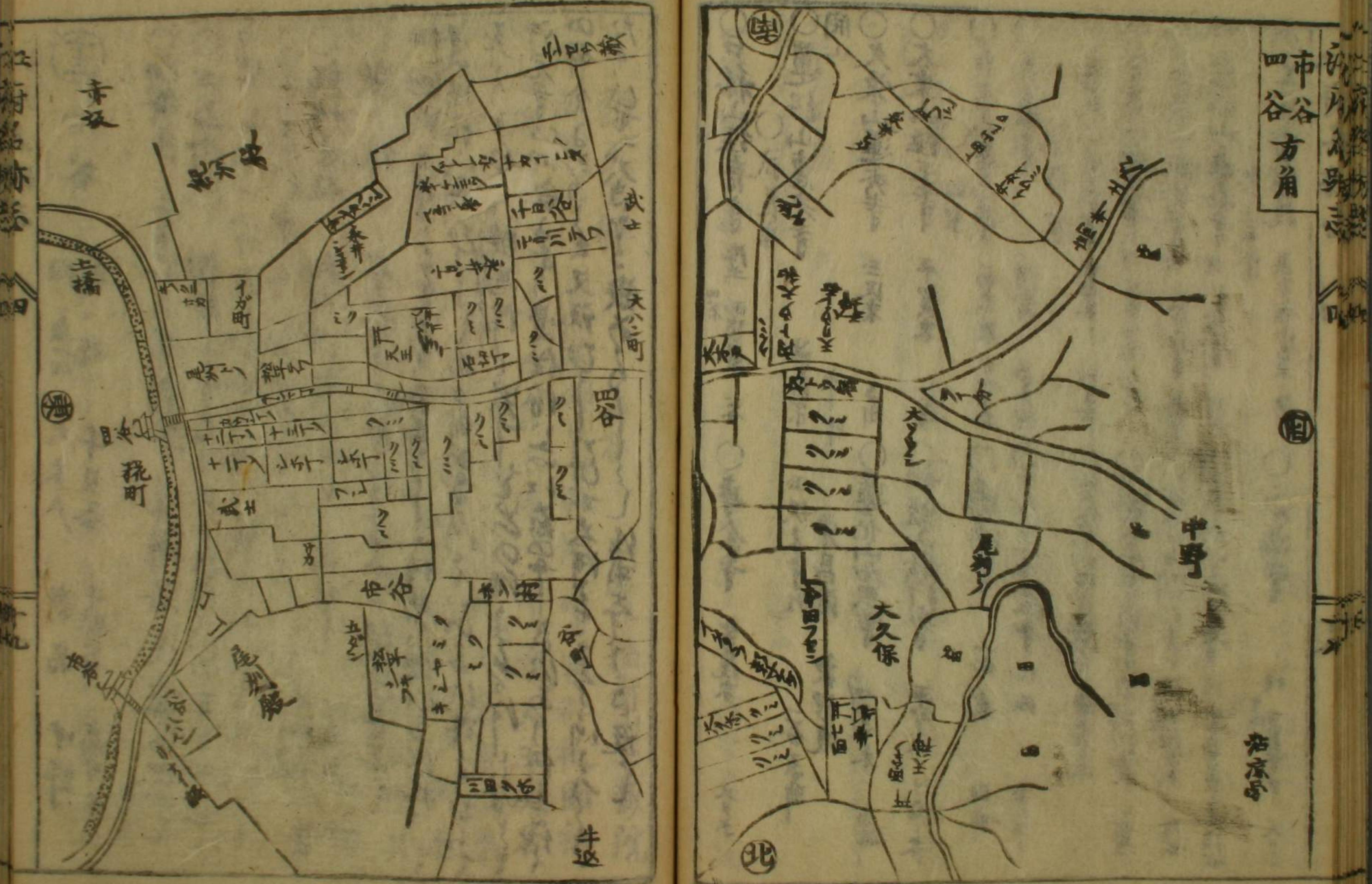
○承福寺

日。五昌寺木

高

江府名跡志

四



○四谷

四扇宿
敷、楊

大木戸
千日谷

新宿
千駄谷

中野
高井戸

○三

- 四谷六、十日谷。萬荷谷。千駄谷。大上谷の四谷也。
○四谷門。粉脚十丁目よりは門の前と四谷ノ
ツナード目十二丁目へじて門の前と時代化を以て門の前
もとより、千駄谷の門の前とあり。○牛小屋
○紀行坐敷。紀行坐敷の小ゆきの坐し。
○駁、楊。在の坂下大路より今ハ駁馬のあらむ
駁馬元寺より名あり。駁馬なる。後藏の傍はるれりて
天よりそれえ駁馬楊。しあく村ある事からみけ楊うもと
行元寺の四記あり。漫往海にふにあひ年々さひあり。作元寺
の碑今よりとて又後じ一ハケ不入河をさくいづれ
たひよへ大きなる聲あり。○後御子す。此既に

○牛頭天王社

四谷

別當 稲荷山宝藏院

山列祇園四社

日本紀算號曰山城國愛宕郡祇園社

則進雄神之化迹。凡有三座。一、牛頭天王。又名。

曰武答天神。

諸社根元記

中間、牛頭天王

素戔鳴尊

坐跡東間八王子立男三女西間、稻田姫本御前

祇園記云天竺北有國名九相。其國有國名吉祥。其

國中有城。城中有王多牛頭天王。又名武答天神。要

婆竭羅龍王。亦爲后生八王子。其眷屬八方四千

六百五十四神。神社考。素戔鳴唐子半波天王。又武答天

神。又天竺より金毘羅神。又摩訶羅羅神。又

阿彌陀。四谷石切町。毎年六月じよ。月假會。立

六月十八日より。月立一日。立遣はわ。祭礼六月十八日。開年

稻荷社。祭内よりは年ろく神。育むる主陰あゝ世人

くらう。是仰とも

○忍示 天王の半弓をひいてひそむ忍の名でさういふと
○千日谷 かくまのあひ方 ○支拂坂 かくまのき
○信濃原 千日谷の本拠地は今こじめとしは寺井堂の
○大木戸 大木戸とす。 高井土中半所をし
○御言室の松 国友の山に植えられそぞの間にあり
奥水の源即ち野の清流ひわくのけを奈アリねぢり
○千駄ヶ谷 びりーいのむかをひく一日に千駄の臺ひす
トとへりかたすとす音伏すとす
○八幡宮 千社下 別當高雲山陽寺 曹因宗 まつやま等
本堂ひ弘庵 下分 東山僧院 神僊所朱印ハ石八軒
此中もハ渋谷金玉丸十箇の附トテ
△掛ね △おひだまはわら裏御の腰ひき野の寺 善樂院
いはい
△金子千枝の庵作はく氏子多々一棟の店と是れなり
登記日九月廿七日 三九郎

○觀音堂

圓木 觀谷山聖輪寺

真言

別列長谷末

岡山行基菩薩

牟宗如意経行自心

眼玉の歌もよのと賊もつゝがもの玉眼黄金たるともぬ
くくぬの市をすくい玉眼をぬなしかのひとを寄てく瓦を
あめんりす千金藏をうる房にハ湯をすのそんの人又あるしと

○忍女の松

圓木 高麗山宋光寺

天台

東巖山末

ぬの木とおもふ木とすとおもふ木とすとおもふ木とすと
ノナガシ鷹の巣とすとさすくしの本蔭は脚林ルとすと
とほく歌のもとすと梶金平とすとすとと言ととむしとせと
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
このむすめとめとめとめとめとめとめとめとめとめと
ヤセと目と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽
と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽
と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽と汽

湯籠の河はせひのる。ぬは日連と申す。元治年中、天台に有る。
台宗開基自徳院の大僧勢秀雄作臺也。次住賢道。

○吉善堤 日本び一満たの堤より余崎にてくらむる。

○元端硝子堺 日本今ハ越を京の西にあり

○太神宮 日本

神主 小川亦曾

一方山のうちもすくらじめて神を守るをねがうじてけやまと

きりえ外に富士乃根ものうをくわせし。傳の神事に付

し太神宮のむらのあらうへ懐のせ因に祠を立ててすつと

○旗之谷 もぐれとそく木村の名を云

○高井土 八千字海のる峰の名なり。宝令寺三重半

○新宿 約一千五百年の名なり。宝令寺三重半井土一里半

○牛窪 記載無野る井土の名は真美加の名ゆ

○東分 朝局の入る井土と牛窪との邊合し。

○篠の井 東分の先松平持は多々有り。その内もあらうとそ

えふの須沙路の手前これよろみある。一里二里の所程

ありてけりの北をあらうせらむ。一里二里の所程

○太田川 勢高乃きにし。○永井原 計開未、永井佐助
名のゆゑ

○大上谷 又根谷。勢高の如く標多少人有の處あらず

○牛窪 狼谷の尾。○桜坂小路 四谷も桜坂十石店
と不名のゆゑ

○御保 四合ノ木 おほ一木。○舟板横町 四合ノ木 おほ一木。○舟板横町 四合ノ木 おほ一木。

○鷲枝 桧木村 喜言 達平寺。某寺佛堂の事すあり

死人をもんげくを金かくは角ひもぐく。一里二里高倉が虎
竹うね乃都うちのものと。成人の云紫草。かぶともく。一
き吉くもくはちからうのと。かぶともく。一
とく良人をよとくのみ初をもすしげ。本芳本川。かぶともく。
とくの馬をかくす。あくす。みねをつて。本のとよりを
本糸さくくと形をし。のとくもをよきり。本のとよりを馬つ。本のとより

トの御本を馬のちのくらうるたうとるあくにんのうの候
御本を馬のうりよりすくはんらむらの様へとくに不詳
又御本の墓もトモソウアサヒ等もそなでる事一しきれ

○墓のあらゆる物がアミ御みじーと御へ祀被ひ 送供

○凝ね 案のうとキタのるはアリ ○沙干の里

又西郷の村 婆不見村 婆う村ト云

大本ノ村

寒水の江渡の御事 游水の御事 游水の御事 游水の御事
ひきま度御定寺の御事 游水の御事 游水の御事 游水の御事
日連うちも千ハ漆 千孟朱 千孟黄金 千孟青十六万夷
游水の御事 游水の御事 游水の御事 游水の御事 游水の御事
下里更に 游水の御事 游水の御事 游水の御事 游水の御事
トモカクシテケルシテの事の御事 游水の御事 游水の御事
さクホをアミアミヨハチモヘリ特として里人の御事

○城山

古不吉某凡の物をもてておるの風味あり

○中野

中野をモラフテの御事になり多慶がし

○中野の宝依寺より真言もアリシテ二月と市中に

レ

ちつてに持あり ○勅書の里 四百石のま

○代々本野 中野のそんを泡かして廣博にすり

らそ年をもくはんをうけたせひのせじの内

○梅掛松 代々本の内も 義保二年五月八備太郎義家奥列

武衡征伐の時ある。陣敵ある。父を義入道死きのう。若年齋にて亡

代、あよと庵君わくすの御苦毛と云馬をげねおほき枝に轄さり

りしきをアサヒの芦毛と云ふ。あやまた本物も。今御子

又李姓ノアリ

ひきの御事やモミキをもすとてがくすれやあをひき

手の手のひのまへ今ハ大も島とタリて山都のを多め
ウルシヘ。聖元のまへナリシモ

○述水　　じのくのまよしより

奉

あり。諸よりとあらむやかのひをかまて世とどもつか

ふまもれあはれにじの瀧震のあもワツキ出でしり

のうるものいせんのたゞとこきのまるとあるのがお

をも。うくものかくとこきのまるとあるのがお

かくともひよのひの屬のくわくの朝とあるしゆくま

てりともものをさふらしむとありとくとくとく

一ノうちいやくにれへみりりすし表すとすれからま

て秋をう一ノを也ても其のれのまくし

川勝文岳

○小手善原

新田義貞極金萬と吉賀陽し

○井の頭山　中野　岸土宗　善福寺

多磨郡角

井方天ねりうのまのうとすれあくゆき

○四谷山

御湯うく寛永のまおとほとばの

池中うる擾其のまくわるりらをあけくちんざるせ

一ノうちじかねすとての強じくひくはくの

あすがくとくとく御一ぬかの豫場のくらいわく七日

御詠くとくとくぬけ中野宝泉寺ひあすとての馬の

ふ門くとくとくいちひく久年坪帳の河がく

○天台宗

四谷山

○鎮護山常融寺自證院　上野未　寺領三百石

尾列仰告提刑　寺領三百石　寺中　寺領三百石

△蜘蛛乃井　　たぬいわ

此一本

△陳に元あらの元とう涌あし毒あく火老死などと

あるひー土壁ノ草木などを波を掘と因ひかづく土嚢をも

りとてあはれすすきとくとく(此宜は本山今山三八九

ノ下の山陰をりけんをあすらきうせんこれを運ぶふ
本堂のまじる用ひの井をめぐすとを縣の井と名とも古跡と
いふるのみあくべし元ハ日須上人の開基す惟官守をも
トモ一日前市也 千代姫君が母堂自證院殿にゆふ
所をう故あくて万治のころ大公宗しあらむる

○朝日薬師

光明山真福寺 上野末

小草下

○ぬまこ延喜院

上野末

小草下 ○寺通山安善寺 自性院末 宝草

○醫王山安寧寺

日

も草下 ○地福院

寶慶院 日

○禪宗佛閣

○巌寺 四谷山長善寺

新列清島も果

畠

志まを巌寺へつゝ寛永の頃沙彌の節叫立てを爲ふ事
の源はさむらむらく長善院へと入庵坐して不動院
いと小善院並へてよどむ寺と名すとより下へ 菩提院わう
くわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうく
で方一母の道とてかじ

○雄峰山金勝寺

常泉寺末

伊豆山童昌寺 青松末

畠

○泰岳山金長寺

金勝寺末

金長寺

畠

○全祐寺

日未

日 ○情龜山永心寺

日未

も草下

○伏王山毫忍寺

日未

毫忍寺

日

も草下

○法輪山勝興寺

東行院

勝興寺

日

も草下

寺中清岩院

谷田院

日

○陽溪山祥山寺

大陸末

石切下

○雲巖山れ教寺

妙心末

日 ○久翁山榮昌寺

妙心末

千日谷

○日照山宗福寺

勝興寺末

日 ○放光山龍潭寺

妙心末

日

○大覺山秀應寺

董壁流

山列淨住寺末

中興別澤和尚

日

○護本山天龍寺

寂心寺中興院末

用之春屋和尚

日

也

○子安偏所

列焉三支院盈岸

○淨土宗佛閣

○專称山西念佛寺 雨福院

寺中 菩提院 信香院

○永固山一行院 淨吉院

靈岸院 日下

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

○唯了山正寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○永固山一行院 淨吉院

日未

○白岩山崇源寺 知見院

日未

○榮孤山香蓮寺 灵岸院

日未

○增光山淨蓮寺 知見院

日未

○涼山西山西延寺 增上院

日未

○深谷山長安寺 日未

日未

○霞因山大宗寺

增上院

○十初山延壽寺 日未

日未

五三九

○長山法善寺

大木戸
下棲木

日本

○法真山理性寺

大木戸
日本

○天狗山平遠寺

日本

○妙福寺

日本

○高尾山日宗寺

日本

○稻荷山妙行寺

日本
天王寺

○宝勝院通寺

日本

○妙性山正義寺

日本
日本

○平野寺

日本

○本吉寺

日本
日本

○寄量宗派寺

日本

○微妙真性寺

日本
日本

○岡山日賢上人

日本

○長岡山崇林寺

日本
日本

○正應寺

日本

○西應寺

日本
日本

○吹正寺

日本

○源慶寺

日本
日本

○法雲寺

東

草

日本
日本

○真英寺

日本

○多羅寺

日本
日本

○正應寺

日本

○源慶寺

日本
日本

○赤坂

今井 青山 深谷 世田ヶ谷
長者九

○赤坂庄

風土記
風土記

莊至赤坂川

今井
赤坂川

日本
日本

○水川社

小六宮ノミコトノミコト 聖護院流

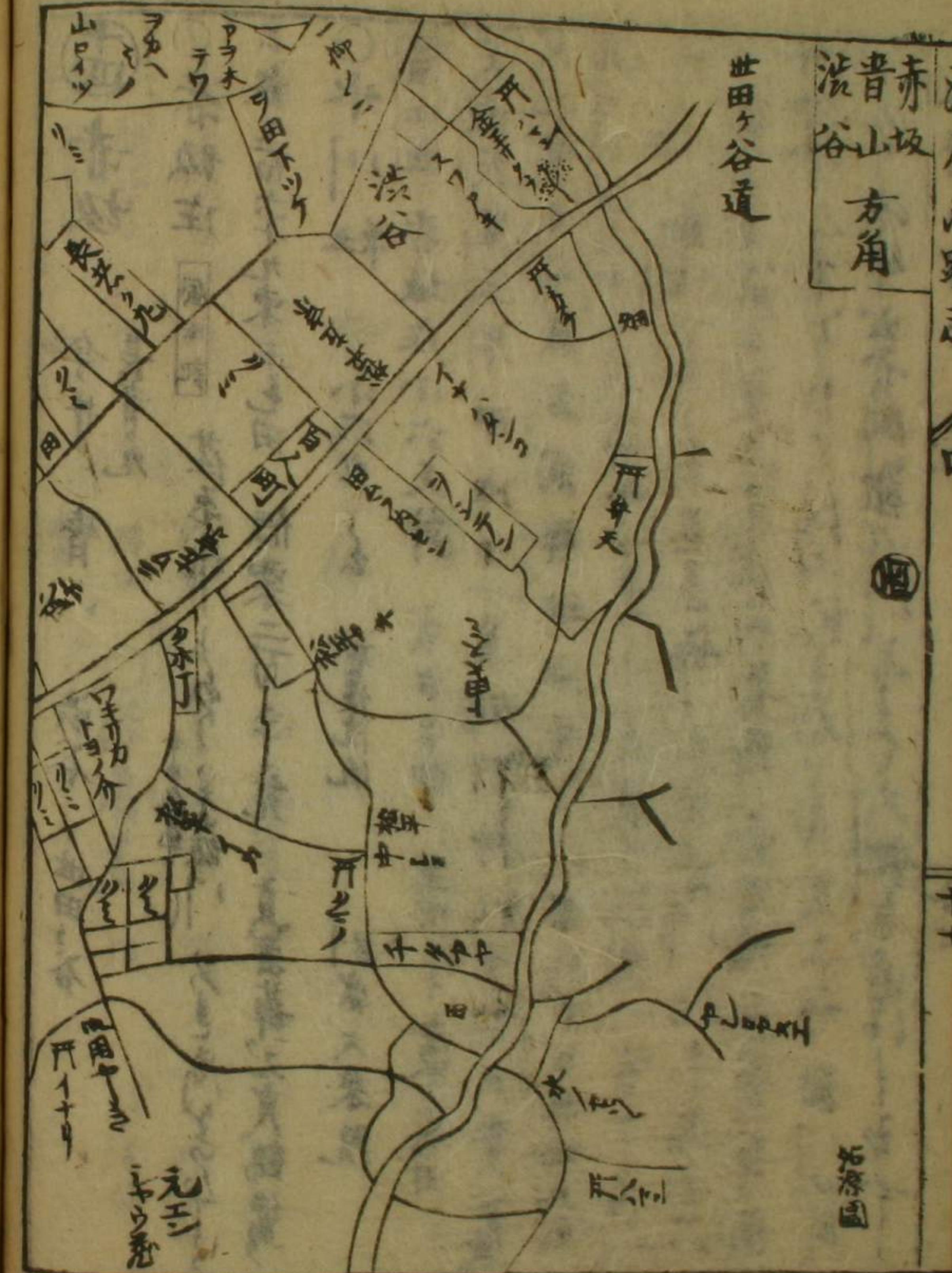
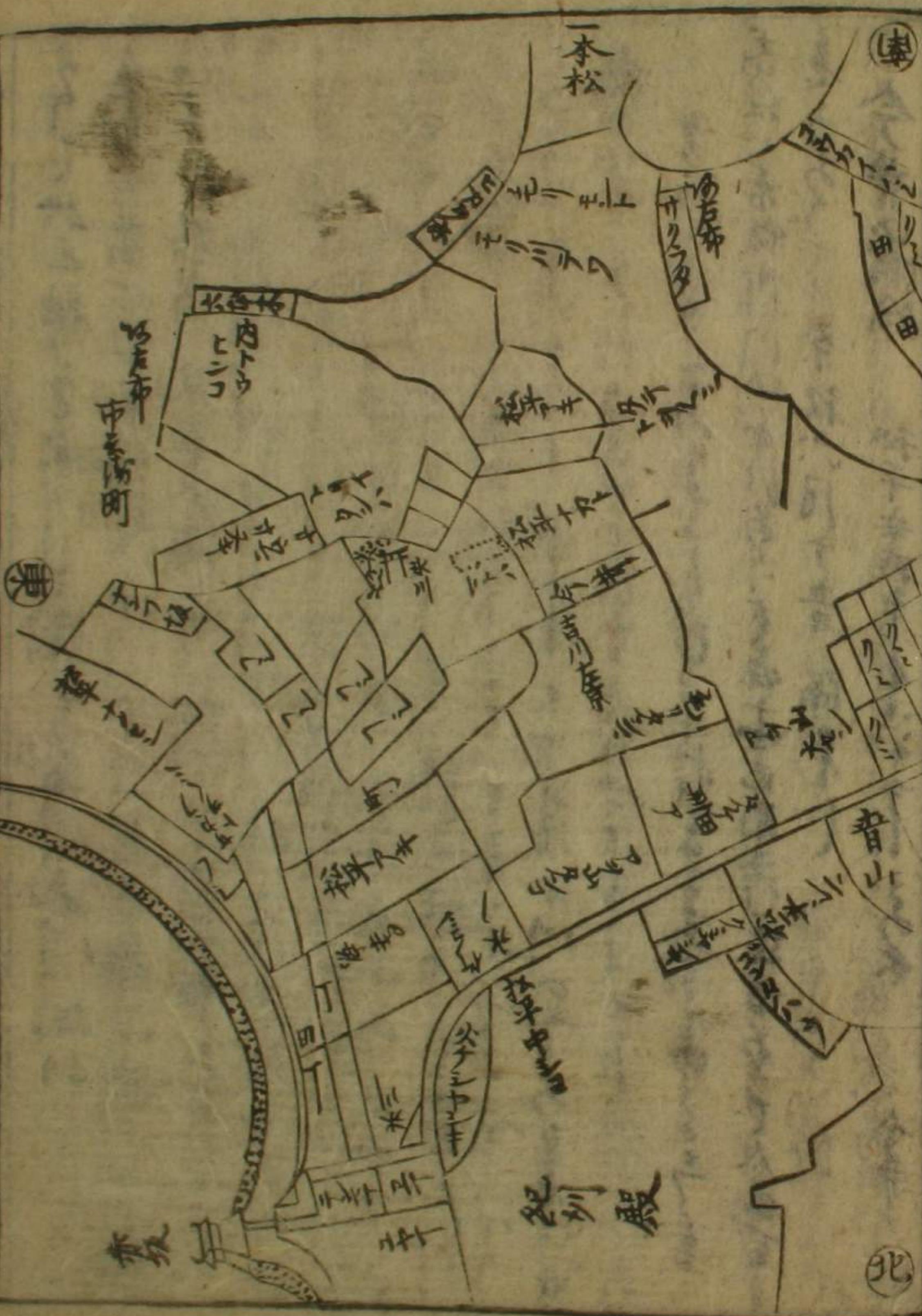
別當大乘院

○赤坂庄

風土記

赤坂庄小六天神 或古呂故 圭田三十束毛田

天武天皇三年甲戌十一月始行神礼有神戸巫戸柔
大己貴与少彦名園韓神也号アマニシマニ六者以古呂故岡名也
水川ミズカワとすらあひよ是友秀の國一宮ウツカヘ
不くひを勧はす云足立社大宮水川社も南云乃
一宮し孝昭天皇三年戊辰冬祭ヒサシタツ煮豆鳴大己貴寄稻
田比咩ヒカルヒメ二名ナリと風土記より足立郡勧川の脚
あり津浦出雲國敷乃門上と大蛇を退治一也了



うて此ニ神を水ノト號も敷川水ノ同祠ノレ
奉書云あ不が呂坂國の外ノ足立郡の水ノト勵
行と紀セテ又云入間郡水ノト社天慶元年ノミ創
ト書りある入間郡ノトシテ
書もしうるなクノト又云帝坂の名を小山山より
而興マリゆヘソトツア是土俗のそ説ケテ更也近江
と古松園とよ不の山と云々モキモトテヨモシテ
てしらく高徳寺ノトシテ
敬モメヒトウテのノトモ聖トヨリモシテ

老々の御子モトシヒアメある事の多シキ
あはれ高坂門ノカジアトモ保西己用御造モアテ今ノモ
達モアト
祭れ六月十日
陽年也

○今井の城跡 松平安義主もすすまつてまゐる

今井

- 田子先生義賢の多慶郡ノアリ思源太義平と合戰の時義賢の生
の父ト云義賢ハ本曾子義仲父も義の子も義平仰又と付テ
惡源太ト云又齊及別面成今井義平ノ歿也ト今井トヨモ吉
義子ト云ウタノ一実壁が倒セテ長井ハ今ノ湯鷹の急
○贋ノ井 太日下すあり法隆寺ノ中て今きナラ鐘あり
○赤根山 紀州伊豆ヤシノ不をも今云紀州空坂ノシ
赤根山ノシ
○駕鳥御門 紀州伊豆ヤシノ川門シ
○茅破坂 松平主も御多事ニシテ御者少シテ
馬主の少シテシテ
○何處坂 たゞげん坂ノシテ何處ト云ねれの事シテ
○行合坂 今井村うるを坂○三引坂 あるるのあの坂
○南都坂 谷門ノシテ御者出坂シ

○推太原ひしー村を集國行とす人住居の地ト云

○青山

青ニ大堀鬼面トさあひしーハ一ゆすら立が在る

○新井

古ノ子ミの門アリヤシテ寺本ノト空缺は附

○加持

セラヨナラシヒタホシトカシト今レハツル

○掃除坂

古ノ子ミの道ト

○荒廃荷社

シロモトノ所に在

○籠坂

右有木の名アビーの所ト云モト有木

○御嶽社

百人町の山神

○熊野大權現

不布
別當ニ光山津性院

○紀伊三山勘定

青山の熊野ノト祭礼九月廿一日

○本宮新宮那智

クレヒテ熊野ミテ云祭神伊弉諾

○早玉之男辛

解く留ニ神シ

日吉社伊弉冉尊生火神時

○被灼而神退

去失故葬於紀伊國熊野之有馬村

○鉤足橋

シロモトノ大河タリ天慶三年平賀門招軍良望

○を殺

ト急相馬郡石井のにて四裏ケモ六源王經基ハ武義

の殺

郡より將門刑罰モテ相馬へ報くそひ俱モモんと

下絶シテ

屋敷ノ竜ノ下シタル故後前田家廣雄ハシ者兵世王

○毫川

ノ開キテ族人を立シテ族人を立シテ經基帶刀

○の斧

ト圍ちニシテ是後日ハ能カタシトシテ

○天涯

基格トシナムセテ旅陣の所ニシテ是後日ハ能カタシトシテ

○の井。親王院すありとて親王院ハ洪谷東福寺に付たり
かの井。今い來福寺あり。又もと御所西根寺也。子根王丸。その名を令の御所根寺と是者。あり。童喜の流。

○淨土宗佛閣

○平河山源熙院澤寺

増上本

圓山教尊聖公丈

ま中

高熙院

聖熙院

高寺門平河口。あく又龜

山

一竹山。御寺。増上本

日熙

清義寺

慧本

川勝寺。唐每寺。同未

日

○信康山童象寺

同未

法性山善學寺。同未

今井

○寂熙山高極寺

同未

長青山室櫻寺。梅窓院

知恩未

晋山

圓山觀智國師

寔參寺。起立

項信益帳華大唯然萬

本山門弘陀

聖使太子の作

之法告而以臘刻。三行。少云

奉平觀音

像

三國治外の傳源出。我八幡太尉。義家。か

而済福寺

享保の間

あらわす而済。す。緣山。下の僧

院。て。振室。精舍。い。福。す。あり。て。ふく。名。を。法。せ。ん。し。て

一社。造。と。あ。り。衆。人。汚。れ。と。み。る。よ。の。強。一。祠。者。而。流。乃

近隣の民。わ。づ。ね。る。と。み。る。よ。の。強。一。祠。者。而。流。乃

捨。核。方。無。源。菴。入。今。お。じ。く。苗。石。と。捨。ひ。て。の。樹。道。一。と

今。お。あ。れ。ぐ。る。却。ひ。た。こ。そ。れ。ぐ。と

留。主。に。居。る。人。へ。ひ。ろ。こ。と。れ。ぞ。さ。う。岸。村。涼。宇

○慈門。長青山の額。英碑。不。知。山。源。昨。の。道。一。
○南命山善光寺。信列善光寺の扁。尼寺。音山
在。之。の。源。昨。中。將。來。孫。佛。し。十。如。那。麻。原。寺。と。云。あ。き。碑。立。石
あ。す。之。の。谷。中。い。あ。り。堂。水。の。あ。あ。す。る。谷。の。而。地。は。今。若。泰。寺。と。

○禪宗佛閣

○靈鳳山羅伽寺

大德寺未 塔院 松溪院 柏樹院

○岡山東光智灯禪師

醫王水未 霽井あり あら高木未
赤坂 万運山陽泉寺 保多未 今井

○彌荷山秀通院 日未

彌荷坂彌荷のゆ ろあり

○玉宗寺

青葉未 青山

○微妙山実相寺 月桂未 日

○龜谷寺

金屋未未 日

○青山海藏寺 芙蓉未

青山

○岡山宝洲和尚

中興密山和尚

唐書一切經書未 未

○普陀山長谷寺 曹洞宗林

大中寺未 明化寺未 未

○岡山門菴宗園和尚

天正十二年

彌陀山の事 未 未

トムリ多石もと改ム

一庫をとて古佛龕と一て納め置キ

立傳二丈六尺

御影

大中寺未 未 未

○佛智山圓通寺 法花宗 王次未

赤坂

○速宗山持法寺 金剛未 普山

○渭水山常玄寺 雷音未 日不

小棲未

○蓮光山妙圓寺 小棲未 日不

○車福寺 粟

轟

○光圓山乃教寺 東未 布坂

○清涼山慈水寺 日

内不

○法廣寺 日

○浄要寺 日

内不

○中根山妙福寺 日

○今井山妙福寺 日

内不

○妙祐寺 日

○竹園山教院

城懶寺未

○心見觀音 聖應太子の作 名取の寺と云ふ

渋谷八幡宮

沾原園

奉

奉

子安寺

金三塔

門

前庭

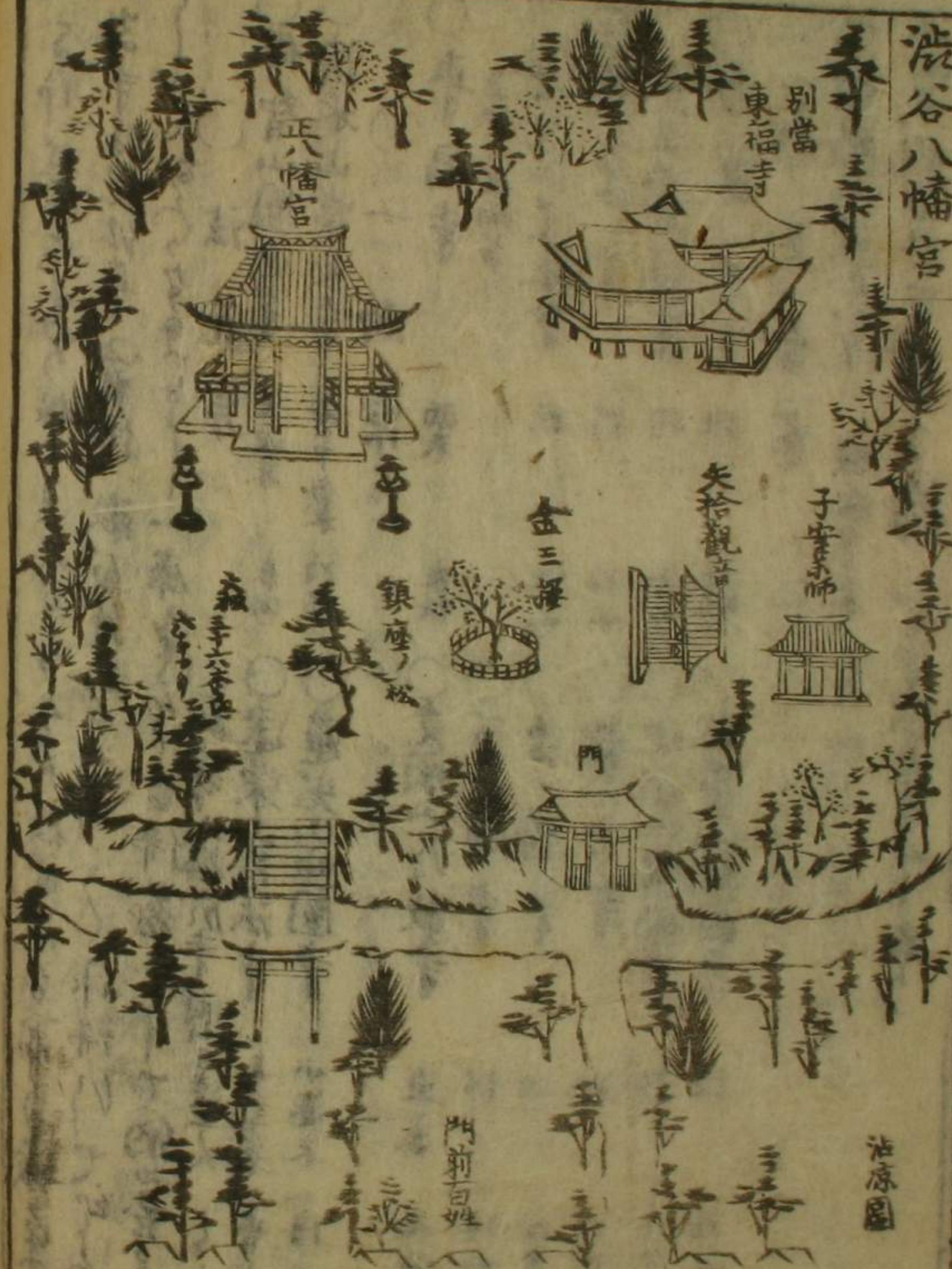
寺

門前庭

寺

門前庭

寺



○渋谷八幡宮

渋谷

天台

別當

渋谷

山東福寺

康平六年村岡立昂良文の爲源川獨土佐の基家不もれ八幡宮
勧請あり瑞子平三室有金王丸はか代く後多く金王丸より
村名をあふる渋谷を氏して大社外し失盤庄七瀬の
彦土神なり謂所七瀬ハ渋谷代木赤坂飯余廢布
下木今井ホナリ青云ハ渋谷八幡宮也今天皇ハ院谷之
同山國鎮僧正糸和元年宋干時百十國歴年十九世宋公治園梨
正六情の神龜ハ弘法の竹應神帝の尊稱なり
月輪乃即旗神正身ノル支拂もり事一あこひを
乃旗ハ長元五年源雅信を棄たる退治の御旗也八瀬の旗
鶴岡を納と日月二流、村田氏基に於て之を義公與列征の河
内二瀬をもくく月の旗へあるてて八幡主となりし居方甚
子安業師行基の化源義朝のち佛也
天拾觀音唐佛
金王丸乃傳藏衣二刀をす自作て去金三ハ金剛杖又謂王の

母誕生之推石を金玉と云是上下の事とし平治平元廢帝

奉えと号と保元丸の後道世と死生す

○金玉楊

燒肉にありむのふへ憂忘樹とも

久賀平中源義朝縫余處各の館より憂忘樹を金
丸に號よ以て山谷にありて多く植え、楊柳の如くはるか
有のうち昔今長者と云うあり山谷氏の末葉も疫病の私
詫託あひて是處の奇特とて病強きもの令ひてめめりと

紫一本

紀列賛殊應接せらるるを以て名矣

而してやうしく在らざる也。然るに深石のさへ御子の如きを
やすれ仰内の土渙谷善入と云ふ人へ金玉丸の子孫なり。一
て今さへえ本のさへかとて名矣。餘めさへいをすと乃
実のあらねの人の極くんすりへるゆきを知らず又細善
いはするべからずして坐りてを賜ふ善入弘一と云則樹
を今さへしてとある名のなる事あつたまづりと

共ノ白ひや一死ひ以て路

菊四梅五

△鎮座ノ松 城内あり 大和年二月十二日小峰氏綱と寶鑑

る輪の原にありて河氏條の後津太守と高麗小松を植え

渓谷へ其先へ故をと河すも傍出れの下に山中より植え
てありのれれ社古ハ三十六株の折木本ちとそよのる所故
に六株あり。松原の木土やへこじとニシテ標あはとし

○誕生之 河清丈八陽のあしる場能の如葉せばども

○金堯城跡 これも楊のあしる場能の如葉せばども

今いわゆる古井又一渓谷代の城也

○河清庄脣次郎館 これも八陽の西城の内と云ふにと

いが大勝流せばども此度北び竪ひ邊論の事ゆゑて六つ
の河清へ引ひる。其の事あはれもその時より今偏高江が

○坊尾平ひな篠糸糸館 ちうしきとしも葉せばども

今いわゆる光宗つるをすやつ小池わう早懸の間も稀が
あつてはる間をとりてはるのうなみくらうめつひの
故あひのうの安達うえをけるたてを約

○耳露水 アツルミズ 天慶二年六月五日基あらに赤石の王也。井浦を除し天又のそら早朝して河川流をどり。井浦を除すより火のすすり一婦みとほは御祖にひの玉を落すかては撫のめ。玉精の婦に施ス是ハ八幡宮の神坐大水の兵火を降ふ。井にありとよす。社祖。御じ。し。ひ宝珠今に未編もはあり。おもろい。を玉の井にて。今玉池とよかて。あらかねとよか。

○休假の場 クモロ 一名去我苦場 ムカシガタマ 百人所の金田村度数を參す。金玉丸をの人の船とて。深さ方二十間。る丈余。二三度ある。ハモリ。西く。富士森飯房総の山。眺望新豊樂苦場をもよろこび。新通。

○古通 コトノハ 強食の代の海とて。古の場のトしたのである。

○神仙水 ジンセンミズ 八幡の水。む。宝珠仙人。け谷。天台。不老長生の仁宗を経て。うよと泉もしげる。神仙谷。とう。

○鉢山 ハチヤマ はや法道院の神事。寺をアリ。

○朝音滝 アサヒナカニ 滝谷。ひ。里に滝谷。寺がある。者多く。掛子衆と。よじり。かきまく。客船と。す。も。の。そ。ら。あ。祀。寺。の。ま。と。流ひ。と。又。母。い。き。ふ。の。ま。す。船。寺。と。云。う。警。ち。船。を。下。て。志。あ。き。と。ひ。と。も。じ。瀬。は。ゆ。す。舟。を。下。て。と。云。

○頤 イ と。ま。と。す。小。え。と。多。か。國。と。ま。と。ん。す。ち。ゆ。し。そ。の。ひ。の。ひ。の。ひ。に。寺。津。寺。の。而。路。あ。り。

○立場沢 リザワ ○鷲谷 スカラバ 滝谷の内。建久三年。源内朝の相続。が。不。好。き。そ。う。渠。を。下。て。印。を。ま。と。く。鷲。渕。と。云。く。の。鄧。行。め。て。お。し。下。を。相。渕。と。ま。と。く。な。渕。と。と。し。そ。の。お。ひ。鷲。谷。と。う。を。鷲。谷。と。う。と。と。○滝谷川 リザワガワ と。う。の。下。に。し。

○冰川社 ヒカルサ 渓谷川。天台。別當惠日山宝泉寺宗主院

平賀政延ありて和田の一族七十五の族堂。其の先祖の忠臣。いふ。

云歟。主は般若教の如きをもてたる高麗國より（今之の所を）
○通玄祐子の如く曰ふ。不思議なる儀列然坂の如き。

○馬車次

されどせよとぞ。○麻比神社

100

文治四年源朝與朝興列泰衡征伐の時洪谷八幡の奮義す。
莊宗寺にて東除苦色の體ありと擧忌一八幡主（作主）
ひるの重と馬江波に立つて身の体と身不を處の御祭

○半盤橋

さるや又入らずをいふ事とぞ。御みとし

じを良氏の妻よとニシテ金前とてあり。密通の事あり。而して
いはゞくと害せられ。之の裏わのアヤの事ある事。此
ゆゑ、じて黒人（かくじん）がくる。者強あう波門の主めにほのまきをす。ま
とくとし今瘡をすし者（かゆ）のうて草酒を薦（すす）め
供（くわく）む。たらまくら治療（りょうり）と云

○世因寺

莊宗寺しゆうとうじ

吉良正六十五万石の時のゆかりと世因寺谷而所と云

○九品佛

九品山唯在念佛院淨真寺

苗谷奥沢郷

あふへ吉良氏の城也。墨壇（まくとう）

墨壇（まくとう）

100

用（ゆ）起上人河碩和尚

延宝六年ノ起立

九品佛一軀（くゆく）中（なか）小佛一千十一軀九品不佛

凡（そん）一万百十軀あり。各座像丈六。叔迦（すか）の像。海光（かいこう）の像。小佛

一千十一軀。余佛像凡三万二千軀（じゆく）

河碩和尚ハ武列（ぶれつ）の姓。野村氏タリ。元和五年正月朔日生。

十八歳（せい）にて生寶（ぶけい）の大教（だいきょう）習（い）ふ。達流上人（だつりゅうじゆにん）の門下（もんか）河碩（かくしき）の門下（もんか）也。三十歲（さい）寔永十三年（じみえいじゅうさんねん）河山和尚（かざんじやうしやう）靈巖寺（りやくがいじ）に庵（あむら）。靈巖寺（りやくがいじ）二
世（せい）から此時（じし）河碩（かくしき）をして灵巖（りやくがい）入（い）て時（とき）寺（てら）とは東（ひが）の靈巖（りやくがい）
にくる。河碩（かくしき）をして灵巖（りやくがい）入（い）て時（とき）寺（てら）とは東（ひが）の靈巖（りやくがい）
日（ひ）夜（よる）心（こころ）を忘（わす）べ。布（ふ）堂（どう）方（ほう）丈（じやう）も（も）じ。庵（あむら）以下（げしも）朝（あさ）は
100 仰（あお）ぎ其（その）法（ほう）の事（こと）も（も）じ。師（じ）一日（いちにち）三（さん）禮（れい）
北（きた）よりて造（ぞう）佛（ぶつ）の費（ひ）を充（あふ）て。寔（じみ）又（また）是（ぜ）六（ろく）の一（い）軀（ぐ）を滅（めつ）
就（す）て。100 七年（しちねん）以上（じょう）中（ちゆう）下（げ）九（くわ）辨（べん）全（ぜん）く充（あふ）足（そつ）せり。列（れつ）

歎ひ佛丈六の体を尊び是處の事に多うあるまゝ一を法
波のあらる佛像などく海中に漂ひ此時珂瓈カキわらへ
哉列はありこれまたく形を保て御心を存シテ御心切さり

今ハて佛像のそばに奉るかす能と

延宝六年奥沢の脚氏、振さるるく汝等を歎千時師
六土ロクドウし汝は其因寂シキンシキくかくもかくし候事のせ
之後九品の信を蒙歎モカムすカム單堂の毎晩イマダウ
あさとく九品佛をひ使のぞれん

延宝八年庚申八月大内オシロイ平堂倒伏トウボク佛像ブツジヤウ而

作又アフタを修補シヨウブし 元禄七年十月七日入寂ス

○大溪山豪徳寺

禪宗

延承歎世田名谷

開ハ馬堂昌善禪師 中興回歸シキ之傳洋峰
文昭十二庚子豪徳院圓基カイい良正忠ヨウジン乃仰母ノウモナリ則
あきに墓ハリ

